


福祉 わかやま

寄り添い つながる 広報誌


この広報誌の発行に
一部共同募金配分金を
利用しています。



「ふだんのくらしのしあわせ」を育む
～社協が進める福祉教育～

今月の表紙

地域住民と交流しながら
学ぶ市ノ瀬小学校の
こどもたち(上富田町)
(2～4Pに関連記事)



Facebook



Instagram



社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会

「ふだんのくらしの しあわせ」を育む

「社協が進める福祉教育」

地域で誰もが安心して暮らし続けていくためには、制度やサービスだけでなく、私たち一人ひとりが互いを理解し、支え合う関係を育んでいくことが大切であり、福祉教育は、その土台となります。

福祉教育は、こどもから大人まで、障がいのある方や認知症の方を含め、地域に暮らすすべての人が、多様な人々の暮らしや思いに触れる学びです。そして、身近な福祉課題に気づき、それを「自分ごと」として考え、行動につなげていくことを大切にしています。

社会福祉協議会（社協）では、互いに支え合い、誰もが役割を持って活躍できる「地域共生社会の実現を目指す」、学校・地域・関係機関・住民とともに福祉教育を進めています。

本特集では、地域の中で実践されている取組を通して、福祉教育の魅力と可能性をご紹介します。



実践紹介 上富田町社会福祉協議会

「まちかど小学校」を訪ねました 「学校に地域の大人がいる日常」

上富田町立市ノ瀬小学校では、休憩時間を活用し、児童と地域住民が交流できる「まちかど小学校」の取組が行われています（令和6年6月開始）。

交流の舞台は、小学校の玄関を入ってすぐの多目的ホール。

始業時間に合わせて地域の方が集まり、交流の準備を始めます。

大休憩のチャイムが鳴ると、こどもたちが駆け足で集まってきました。

この日の遊びは「ピンポンダーツ」。

「これ、どうやったらええの？」
「今日は何するん？」興味津々で話しかけてくるこどもたちを迎え入れ、自然と遊びが始まります。

そこには特別な役割分担はありません。大人とこどもがお互いの存在を大切に感じられる笑顔が広がっていました。



「今日は何するん？」休憩時間になると、地域の方とこどもたちの笑顔が広がります。

「ここに来るのが楽しい」 子どもたち・地域の方の声

「おばあちゃんたちにルールを
教えてもらって、一緒にゲームを
するのが楽しい」

【5年生】

「いろいろなお話が
できて楽しい」

【1年生】

「今日は初めて来ました。
また来たいなあ」

【地域の方】

「通学途中の子どもたちから声を
かけてもらえてうれしいです」

「ここに来て、子ども
ちと会えるのが楽しみ
になっています」

「農作業もあるんや
けれど、ここに来
たいから段取りし
て来たんよ」



地域の方にルールを教わりながら、一緒に楽しむ子どもたち。

地域に見守られて育つ子どもたち

上富田町立市ノ瀬小学校
山口仁美校長

子どもたちの成長には、地域の方など、いろんな人に大事にされたことも時代の記憶が大切だと思っています。その記憶が、大人になった自分を支えてくれます。自尊感情につながったりするのでないでしょうか。また、大人も元気なこどもたちに出会うと元気をもらえ、「〇〇のおばあちゃんや」「小学校の〇〇くんやなあ」と言葉を交わせる日常は、とてもうれしいものです。「まちかど小学校」は、町社協に相談し実現しました。町社協の関口さんにはさまざま提案をいただき、心から感謝しています。こどもはもちろん、参加してくださる皆さんが明るく楽しんでおられるんです。どんな活動でも、楽しい「こと」が大切ですね。



学びを支える地域の力

交流は休憩時間だけではありません。

3年生の社会科「昔のくらし」の授業では、地域の方が先生となり、マッチを使った火起こしや元のお餅「さとう餅」を七輪で焼くなど、昔のくらしへの理解を深めました。

また、小学校で行われる地域食堂「いちい食堂」では、地域住民と町社協職員が地元野菜を使ったメニューづくりを行い、卒業生も手伝いに訪れるなど、多世代のつながりが広がっています。

地域にまぐ、つながりの種

上富田町社会福祉協議会

関口玲子さん

「こども達と顔を合わせる機会が減ったなあ」という声を地域からよく聞くようになり、地域とこどものつながりをも一度築いていきたいと考えようになりました。

その思いをもとに、住民の皆さんと試行錯誤を重ねながら、「まちかどカフェ」や「地域食堂」など、小さなつながりの場を地域の中につくってきました。

町社協として、それぞれの場をつなぐ役割を担うことで、新たなつながりが育まれています。

取材を終えて

こどもたちが地域の方々と互いに関わり、世代を超えて学び合う福祉教育の実践が小学校の日常に自然と溶け込んでいました。

こどもたちは地域に見守られる安心感を得て、大人たちもまた、こどもたちとの交流を通して地域とのつながりを実感しています。

社協は、こうした日常の交流を大切にしながら、「ふだんのくらしのしあわせ」が生まれる関係が広がる地域づくりを支えています。



上富田町社協 関口さん(写真右)



いちい食堂のメンバーと社協職員でメニューのアイデアを出し合っています！

県域で広がる福祉教育の輪

「わかやま福祉教育推進プラットフォーム」

多様な関係者と連携した福祉教育を推進していくために、県社協では令和6年度に「わかやま福祉教育推進プラットフォーム」を立ち上げました。

地域の社協職員をはじめ、学校教員、行政職員、当事者など多様な主体が参画し、それぞれの強みや資源を持ち寄りながら、福祉教育の充実に向けた取組を進めています。

本プラットフォームでは、情報や実践の共有、実践者同士のつながりづくりを通して、現場での悩みや課題とともに考え、解決へと導くことをめざしています。単なる情報交換にとどまらず、多様な主体が協働しながら新たな実践や活動を生み出していく仕組みとして、県域における福祉教育の広がりを支えています。



多様な立場の実践者が集い、福祉教育について学び合っています。

実践者の声



御坊市社会福祉協議会
望月 翔太さん

最初は福祉教育って何をしたらいいか全然分からなかったんです。でも、他の社協の実践を聞いたり、悩みを共有したりする中で、「まずはやってみよう」と思えるようになりました。特に「やるだけで終わらせない」という視点は、今の実践にもつながっています。サロンと小学生の交流でも、こどもや地域の方がどう変わったかを振り返りながら取り組んでいます。

和歌山県CSマイスター※
しもだ きくえ
下田 喜久恵さん

学校における福祉教育で大事なのは、「こどものためにどう授業をつくるか」という視点です。最初からうまくいくことばかりではありませんが、社協が丁寧に説明し、一緒に考えてくれることで信頼関係ができていきます。特に助かるのは、地域の人とのつながりです。学校だけでは出会えない方を授業につないでくれる。外部の大人と関わることで、普段は控えめな子の表情がいきいきと変わる瞬間があるんです。

※CSマイスター
…「コミュニティ・スクールの普及やアドバイスをを行う



【まとめ】

社会的孤立や生活課題が複雑化する今、地域の中で互いを理解し、支え合う関係づくりの重要性はますます高まっています。

福祉教育は、特別な学びではなく、地域の中で人と人が出会い、関わり合う日常の積み重ねを通じて学び合うものです。地域で暮らす多様な人たちが互いを知り、支え合いながら暮らしていく関係づくりを育んでいくことが、社協が行う福祉教育の大きな役割です。

県社協はこれからも、地域に根ざした福祉教育の実践を支援しながら、「誰もが安心して暮らせる地域づくり」を進めていきます。

令和7年度 和歌山県社協事業報告・決算報告の概要

令和7年度は、「ともに生きる地域社会の実現をめざして『ふだんのくらしのしあわせをみんなの力でつくります』」をテーマとする第6次和歌山県社会福祉協議会活動計画の5か年計画の第4年次として、各事業に取り組みました。

重点目標である「社会的孤立への対応」では、県市町村社協連絡協議会と連携し、特例貸付借受人等生活困窮者への支援をはじめとする3つのテーマで業務課題検討会を開催し、それらの検討内容を踏まえた研修会等の企画・実施に取り組みました。

また、「地域福祉を支える組織や専門職の確保・養成」では、求職者と求職者との効果的なマッチングを行うため、ハローワークとのさらなる連携強化を図り、介護分野における生産性向上の取組を支援するための相談対応をしました。

そのほか、「自然災害への対応」では、広域訓練を実施するとともに、災害ボランティアセンター運営に関するICT化の推進、「災害福祉支援ネットワーク・災害派遣福祉チーム(DWAT)」の登録時研修及びステップアップ研修を実施しました。

事業報告・決算報告の詳細は、県社協ホームページをご覧ください。

【お問合せ先】総務企画部 総務経営班
TEL: 073-435-5222

◆生活福祉資金会計関係 収支概要

(単位:円)

収入	
経常経費補助金収入	34,943,000
貸付事業収入	341,438,082
積立資産取崩収入	282,953,427
生活福祉資金会計繰入金収入	17,928,800
その他	4,976,289
前期末支払資金残高	1,794,715,592
計	2,476,955,190

支出	
人件費支出	54,591,004
事業費支出	226,143,948
事務費支出	44,984,000
貸付事業支出	58,379,992
積立資産支出	1,136,604
生活福祉資金貸付事務費会計繰入金支出	18,797,479
その他	388,165,386
当期末支払資金残高	1,684,756,777
計	2,476,955,190

◆一般会計 収支概要

(単位:円)

収入	
会費収入	10,156,650
寄附金収入	14,283,248
経常経費補助金収入	274,299,616
受託金収入	129,318,213
事業収入	31,289,012
退職共済預り金収入等	2,249,924,882
その他	35,966,902
前期末支払資金残高	657,428,958
計	3,402,667,481

支出	
人件費支出	252,550,176
事業費支出	445,343,432
事務費支出	31,811,640
退職共済事業支出	28,344,072
助成金支出	25,578,373
退職共済事業管理資産支出等	1,980,734,221
その他	11,929,105
当期末支払資金残高	626,376,462
計	3,402,667,481



「ご寄付をいただきました！」

県民の皆様方には、赤い羽根共同募金にご協力を賜り、誠にありがとうございました。

社会貢献活動の一環として、共同募金へご寄付していただく企業・団体が増えています。

赤い羽根共同募金の趣旨にご賛同、ご寄付をいただき、和歌山県共同募金会会長感謝状をお渡しいたしました。

ご協力ありがとうございました。



株式会社宮尾組
(海南市)
代表取締役
宮尾 和也 様



株式会社インテリックス
(和歌山市)
代表取締役
木村 太郎 様

「ご相談ください」

社会貢献活動として、何かできることをお探しの企業・団体の皆さまへ、共同募金による様々な協力方法をご提案し、お手伝いさせていただきます。

まずは、県共同募金会またはお近くの市町村共同募金委員会までお問い合わせください。

赤い羽根 わかやま



お問合せ先

社会福祉法人和歌山県共同募金会
〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛7階
TEL073-435-5231 FAX073-435-5232

メール info@akaihane-wakayama.or.jp

HP https://www.akaihane-wakayama.or.jp/



宮本佳子会長

地域のみんなでやろう! 「有功ふれあいお食事会」

有功地区社会福祉協議会では、地域に住むひとり暮らし高齢者の方が集まって食事を楽しむ「有功ふれあいお食事会」を月に1回開催しています。平成3年にスタートしたこのお食事会は、6月に第400回を迎えました。有功地区社会福祉協議会の宮本佳子会長にお話を伺いました。

有功地区社会福祉協議会
住所:和歌山市園部1456-1
Tel:073-461-6279

交流のきっかけづくりから35年

有功地区社会福祉協議会では、ひとり暮らし高齢者の外出と交流のきっかけづくりを目的として、平成3年11月から月に1回の食事会を開催しています。参加費は500円で、地域に住む70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象としています。コロナ禍以前は、社会福祉法人紀伊松風苑地域交流センターで約100名の方が参加していました。現在は、毎月約35名の方が参加しており、お誕生日のお祝い等のイベントも行いながら、楽しいひとときを過ごしています。また、年に1回は自分たちで献立を考え、調理する機会もつくっています。

地域のみんなで交流

食事会は、年度初めに活動計画を立て、地域の各種団体や地区社関係者の協力を得ながら運営しています。

また、地域資源を活用するとともに、地区内の3つの小学校(有功小学校・有功東小学校・鳴滝小学校)と有功中学校の児童・生徒との交流も行っています。こどもたちはとても元気で、自分たちで考えた昔遊びやゲームを通じてたくさん元気をもたらしています。

参加者の方々から笑顔で「楽しかったよ!」「ありがとう!」という声をいただいた時やこどもたちから応援メッセージのお手紙をもらったときにはとても嬉しく、大きな喜びとやりがいを感じます。

400回の節目を迎えて

これまでの活動の中で、新型コロナウイルス感染症への対応など苦労することもありました。しかし、地域のみんなが「やろう!」という気持ちを持って協力し合ってきたからこそ、ここまで長く活動を継続することができたと思っています。

今後、みんなが楽しく過ごせる場であり続けるよう、「やろう!」という気持ちを大切にしながら、地域の力を結集して活動を続けていきたいと思っています。



6月19日のお食事は第400回を記念してダイワロイネットホテル和歌山で開催されました

事業所の苦情解決体制について確認しましょう

1 苦情解決責任者

施設(事業所)の長や代表者等で、全体を総括できる立場の方を選任します。
 なお、代表者が遠方で、日常的な苦情対応が困難な場合、あるいは立場上の代表者で、日々の事業内容を承知していない人などは、利用者等から不信を招くことにもなり、苦情解決責任者としては避けるべきとされています。

2 苦情受付担当者

苦情受付の窓口として、ある程度責任ある立場にある中堅職員を選任します。
 相談援助スキルを持ち、苦情に対し、冷静に受け止め、傾聴できる方が望ましく、男女複数名設置するなど、利用者が苦情・相談を申しやすい環境を工夫することが求められます。

3 第三者委員

苦情解決に社会性や客観性を確保し、利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を実現することが、第三者委員の設置目的です。
 民生委員・児童委員、大学教授、弁護士など社会的信頼性を有する方で、中立性・公正性を確保するため複数名を設置することが望ましいとされています。

県福祉サービス運営適正化委員会では、各事業所で苦情解決の仕組みが整備されるよう、事業者等を対象に出前講座(事業所の職員研修への講師派遣)を実施しています。

また、事業所の苦情解決体制の周知用ポスターを配布しています。
 詳しくは右記までお問い合わせください。

【お問合せ先】
県福祉サービス運営適正化委員会
 TEL073-435-5215 FAX073-435-5584
 e-mail:kujou@wakayamakenshakyō.or.jp

夏のボランティア体験月間 体験者募集!!

7月~8月は、夏の期間を利用して、多くの方々にボランティア活動を体験していただく月間です。県内各地でボランティア活動をより気軽に体験できるプログラムを、Googleカレンダーで公開しています。QRコードからぜひチェックしてみてください。

参加方法

- ①カレンダーをチェック
- ②興味のある体験活動をクリック
- ③参加条件を確認し、問合せ先へ連絡・申し込みます。



この夏、あなたもボランティア活動に参加してみませんか。

お問合せ先

県ボランティアセンター(県社協内)
 TEL073-435-5220
 E-mail:waka-vc@wakayamakenshakyō.or.jp
 詳しい内容は、ボランティアセンターホームページをご覧ください。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和8年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラから
 (ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料(1名あたり)

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
	地震・噴火・津波による死傷		×	○	
賠償責任	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		
年間保険料			350円	500円	

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 TEL: 03 (3349) 5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)
 この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03 (3581) 4667
 受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

“ふくし”にまつわる
フクシモノ
vol.6

～彩り豊かな、一点ものの履き心地～
布ぞうり

社会福祉法人きのかわ福祉会の就労継続支援B型事業所 きのかわ共同作業所では、利用者さんが分担しながら、カラフルで多彩なデザインの布ぞうりを一つひとつ丁寧に作っています。手編みならではのやさしい履き心地で、通気性も良く、素足より気持ち良く感じられます。ネットに入れて洗濯機で洗えるため、何度も使えてお手入れも簡単。サイズはS・M・Lの3種類があります。

お気に入りの一点を見つけて、これからの暑い夏に備えてみませんか。



■ 根来さくらの里
■ めっけもん広場
などで購入できます

社会福祉法人きのかわ福祉会 きのかわ共同作業所

住所 岩出市根来1557番地 **TEL** 0736-63-1873

学校関係者の皆さまにお知らせ

令和8年度 出前講座・出張講座



～みんなに知ってもらいたい、福祉のお仕事! 生徒の“気づき”を育てる、介護のリアルな学び～
福祉・介護の仕事内容など、実際の現場経験をもとに仕事の楽しさ、やりがいなどをお伝えします。



介護現場の方の声をお届けします!

車イス体験や疑似体験から介護の仕事の理解を深めます

生徒の声

voice

全てを助けるのではなく、自立して生活できるようにサポートをすること、相手の方の尊厳を守るということ、介護とお世話の違いなどの気づきの声が多く寄せられました。実施した学校からも好評をいただいております!

お問合せ先

印南町以北エリア(和歌山市等)

県福祉人材センター ハートワーク(県社協内) TEL073-435-5211

みなべ町以南エリア(田辺市等)

紀南福祉人材バンク(田辺市社協内) TEL0739-26-4918

申込受付中

福祉人材キャリア形成支援研修

研修名	開催日時	会場	受講申込期限
アンガーマネジメント研修【紀北編】	8月 3日(月) いずれも	和歌山ビッグ愛	7月13日(月)
アンガーマネジメント研修【紀南編】	8月 4日(火) 10:25～15:30	ビッグ・ユウ(田辺市)	
アサーティブコミュニケーション研修【紀北編】	8月 6日(木) いずれも	和歌山ビッグ愛	7月13日(月)
アサーティブコミュニケーション研修【紀南編】	8月 7日(金) 10:25～15:30	田辺スポーツパーク(田辺市)	
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程【管理職員編】	9月15日(火) 9:55～17:10 9月16日(水) 9:25～16:40	和歌山ビッグ愛	7月15日(水)
人材定着のための人事・労務管理研修	8月20日(木) 10:25～16:00	和歌山ビッグ愛	7月30日(木)
採用戦略としての広報力向上研修	8月27日(木) 10:25～16:00	和歌山ビッグ愛	8月 6日(木)
リーダーシップ・マネジメント力向上研修	9月 2日(水) 10:25～16:00	和歌山ビッグ愛	8月12日(水)

※研修の受講には、受講料がかかります。 ※定員(先着)になり次第締め切ります。 ※県社協会員は、会員価格で受講いただけます。 ※感染症や自然災害等の事由によっては、中止になる場合があります。 ※詳細は県社協ホームページをご覧ください。

【お問合せ先】県福祉人材センター ハートワーク(県社協内)TEL073-435-5210



読者アンケートはこちらから。読者の皆さまの声をお聞かせください!

この冊子は、環境に優しい植物油インキで印刷しています。

